

再評価書

箇所名	志摩市阿児町甲賀～志摩市大王町畔名	事業名	主要地方道磯部大王線志島バイパス	課名	道路建設課(志摩建設事務所)
事業概要	工 期 (下段当初)※ H18年～H31年	全体事業費 (下段当初)※ H18年～H31年	1,571百万円(負担率:国5.5:県4.5)	1,571百万円(負担率:国5.5:県4.5)	

事業目的及び内容

■当該路線の状況

主要地方道磯部大王線は、志摩市磯部町と大王町を連絡する道路で、志摩半島東部の沿岸部の集落を結ぶ、延長約18kmの道路です。当該路線周辺には、全国的に有名な安乗崎灯台や大王崎灯台、有数のサーフポイントである国府白浜や市後浜などの観光スポットがあります。

こうした周辺状況の中、事業区間である志島地区の現道は幅員が狭く、見通しが悪い状況であり、円滑な交通に支障をきたしています。

■事業目的

志摩市沿岸部の未改良区間を解消することで、安全で円滑な交通の確保を図ります。

■事業内容

- ・事業計画期間 平成18年度～平成31年度
- ・全体事業費 1,571百万円(工事費:1,310百万円、用地補償費:261百万円)
- ・計画延長 L=1,900m (起点) 志摩市阿児町甲賀～(終点) 志摩市大王町畔名
- ・幅員 W=6.0 (7.5)m
- ・主要構造物 橋梁 1橋

事業主体の再評価結果

1 再評価を行った理由

平成18年度に事業採択後、一定期間(10年)が経過し、事業継続中であるため、三重県公共事業再評価実施要綱第2条(2)に基づき再評価を行いました。

2 事業の進捗状況と今後の見込み

2-1 事業の進捗状況

- ① 平成26年度末の事業進捗率は、75% (用地100%、工事70%) となっています。
- ② 畔名側の切土区間1040mより工事を進め、盛土区間860mについては施工中であり、現在は橋梁下部工の施工を進めています。

2-2 今後の見込み

平成31年度の全線供用に向け事業を推進します。

3 事業を巡る社会経済情勢等の変化

平成25年9月には、高速道路に連絡する第二伊勢道路が開通しました。このことにより、高速道路を利用して、志摩地域に訪れる観光客の利便性が向上しています。

また、平成28年の伊勢志摩サミット開催による全国的な知名度向上により、将来の観光客の増加が見込まれています。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

○事業区間全体の費用対効果分析の結果は、

走行時間短縮便益	24.7億円
走行経費減少便益	1.3億円
交通事故減少便益	0.03億円
総便益	26.0億円
総費用	17.1億円

費用便益比は、「1.5」となります。

4-2 その他の効果

○防災機能の強化

当該路線が開通することにより、火災現場までの時間短縮が見込まれ、迅速な現場到着や緊急走行時の安全確保が可能となります。

○通過交通と生活交通の分離

志島バイパス供用に伴い、主要交通量がバイパスに流れることから、集落が隣接する現道部については交通量の減が見込まれ、通過交通と生活交通の分離が期待されています。

○観光面の支援

当該路線が開通することにより、観光面では点在する観光スポットが狭隘区間を通行せずに結ばれることにより、アクセス性が向上します。

4-3 地元の意向

平成11年度に志島地区より要望があり、交通渋滞と交通事故の危険を解消するため、志島バイパスの早期完成を強く要望されています。

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト縮減

切土法面の法尻部や盛土法面の路肩部にコンクリート張工を施工し、除草に要する維持管理コストの削減を図っています。当該事業において必要となった土砂は、他工事の残土を流用し、また、不要となった土砂は、近隣の公共事業の盛土材に活用し、建設コストの縮減を図っています。

5-2 代替案

現在用地買収は完了し、完成に向けて全線に渡り工事を進めている状況であること、現道の状況は現在も変わらず危険な状況であり、総合的に判断した結果、代替案はありません。

再評価の経緯

なし

事業主体の対応方針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されたため当事業を継続したいと考えています。